

単元名 私たちと歴史

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解するとともに、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付けることができる。
 (2) 時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現することができる。
 (3) 私たちと歴史について、歴史的な見方・考え方に沿った視点を生かして、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

標準的な展開例

10220105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 小学校の歴史学習を振り返り、単元の学習問題をつかみ学習計画を立てる。</p> <p>★これまでの歴史学習を振り返ろう。</p> <p>○小学校で学んだ主な人物と文化遺産のイラストや写真を基に、歴史学習を振り返る。</p> <p>・小学校で、聖徳太子は争いを無くすために、「十七条の憲法」をつくったことを学んだ。</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●中学校の歴史学習で大切なことは何だろう。</p> <p>2～3 歴史を大きく変えた人物について、調べて考える。</p> <p>★歴史を大きく変えた人物はだれだろう。</p> <p>○歴史を大きく変えた人物について、調べて考える。</p> <p>○班で調べたことを説明し合い、出された意見を基に話し合う。</p> <p>○自分の考えをまとめる。</p> <p>・平安時代に、天皇に代わって政治を動かすようになった「藤原道長」が歴史を大きく変えた人物だと思う。</p> <p>4 年代や時代区分の表し方を理解し、その意味や意義を考え、表現する。</p> <p>★年代・時代区分の表し方を知ろう。</p> <p>○年代の表し方を調べる。</p> <p>○時代区分の表し方を調べる。</p> <p>・「原始」や「古代」などは、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分ける方法である。</p> <p>5 「歴史的な見方・考え方」を身に付ける。</p> <p>★「歴史的な見方・考え方」を知ろう。</p> <p>○中学校での歴史学習のポイントを知る。</p> <p>・「時系列」に着目すると、歴史上の出来事が、どの時期にどんな順序で起こったかを捉えられる。</p> <p>・「推移」に着目すると、ものがどのように継続したり、変化したりしたかに気付くことができる。</p> <p>・「比較」して、違いや似ている点に着目すると、それぞれの特色を明らかにすることができる。</p> <p>・「つながり」に着目すると、ある出来事の背景や原因結果などを考えていくことができる。</p> <p>○中学校での歴史学習で大切なことを確認し、単元のまとめとする。</p>	<p>・教P. 6～P. 7</p> <p>・小学校で学んだ主な人物について振り返る中で、その人物が行ったことや生きた時代の様子などを問い、単元の学習問題の設定につなげる。</p> <p>【評】小学校の歴史学習を振り返り、人物や文化遺産について知っていることや気付いたことを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・単元の学習問題を設定したり、学習計画を立てたりする中で、学び方を身に付けることの大切さを理解させる。</p> <p>・教P. 8～P. 10</p> <p>・政治分野で活躍した人物と文化分野で活躍した人物に区別することで、それぞれの人物がどのようなことを行い、その時代にどのような影響を与えたかを考えさせる。</p> <p>・自分と班の人が選んだ人物やその理由が異なる場合は、互いの考えが十分に理解できるまで質問し合うようにさせる。</p> <p>・歴史を大きく変えた人物を一人に絞り、その人物が活躍した時代について調べる中で、日本にはいくつかの年代や時代区分があることに気付かせる。</p> <p>【評】歴史を大きく変えた人物の歴史との関わりを考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 11</p> <p>・教P. 11を用い、西暦、世紀、元号などの時代の表し方を押さえる。</p> <p>・時代区分の方法が複数あることを押さえる。</p> <p>【評】年代と時代区分の表し方を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 12～P. 13</p> <p>・歴史を考察し、理解するための手立てとして「歴史的な見方・考え方」を働かせながら学習を進めていくことの大切さを理解させる。</p> <p>【評】時系列、推移、比較、つながりの四つの視点や方法を使って学習を進めることを理解し、活用の仕方を考えたり、まとめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】